

スポーツに対する意識が高い高校生の 豆乳摂取状況に関する調査

日本豆乳協会では、2016年から、スポーツに対する意識の高い高校生を対象に、良質な植物性たんぱく質摂取の必要性を啓発、豆乳の習慣化をサポートするため「スポーツ×豆乳キャンペーン」と称し、毎年、実施しています。同キャンペーンでは、文科省が認定したスポーツ強化高校をはじめ、スポーツの大会に参加する高校生等に対し、豆乳のサンプリングを行うとともに、豆乳やたんぱく質の理解を深めあるための高校生向けのパンフレットを配布しています。すでに、全国28都道府県、のべ106校、61,500本の豆乳を協賛しました。あわせて、豆乳を試飲した高校生によるアンケートを実施し、その結果の概要は下記のとおりです。

■ スポーツ×豆乳キャンペーンのアンケートの実施概要

1. アンケート調査目的

スポーツに対して意識の高い高校生の豆乳摂取状況を定点で観測し、今後の、日本豆乳協会及びそのメンバー企業におけるマーケティング・広報戦略の活動に資することを目的に実施。

2. アンケート調査方法

豆乳のサンプリング後、アンケート票配布による調査

3. アンケート調査実施日

2019年～2023年の5年間

4. 質問項目

- ① 豆乳に対する理解、試飲後の感想
- ② 豆乳の摂取経験/摂取頻度/摂取意向
- ③ 家庭内での豆乳の購入状況
- ④ 植物性たんぱく質に対する認識・意識

5. アンケート調査対象者

全国の各都道府県からスポーツ強化校に認定された学校の生徒/教職員
(有効アンケート回収数：全国約96校、36,681件)

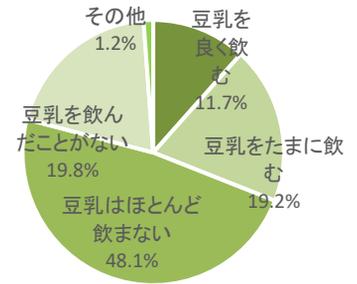
■ 高校生の豆乳摂取状況アンケート分析結果の概要

- 豆乳を1度でも飲んだことがある人は、多い（約8割）。しかし、日常的には約7割が「豆乳をほとんど飲まない」、「飲んだことがない」層もあり、豆乳の摂取頻度は多いとは言えない。
- 高校生の子どものいる一定の家庭内における豆乳の購入状況をみると、約半数はある程度、豆乳を購入しており、普及していると推察される。
- スポーツをしていたり、筋肉や体力づくりをしていることから、「豆乳でたんぱく質が摂取できる」という知識があっても、豆乳を日常的に摂取するには至っていない。
- 豆乳を試飲し豆乳に含まれる良質なたんぱく質についての知識を得たことで、今後、積極的に豆乳を飲んでいきたいと答えている層は、増加傾向にある。

■ 高校生の豆乳摂取状況アンケート分析結果

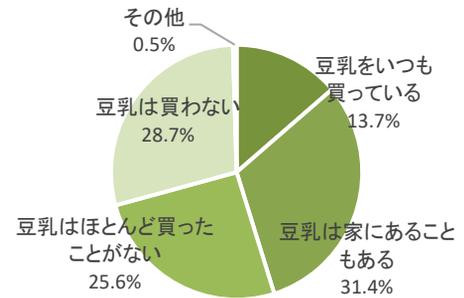
約8割は、豆乳の摂取経験がある。

- 1度でも豆乳を飲んだことがある人は、約8割。
- 筋肉づくりや体力づくりをしている率が高い生徒であっても、良質なたんぱく質が摂取できる豆乳の摂取頻度は多くはなく、約7割が「豆乳をほとんど飲まない（48.1%）」、「飲んだことがない（19.8%）」。
- 過去5年間におけるアンケートを継続的に実施してきたが、この割合に大きな変化は見られない。



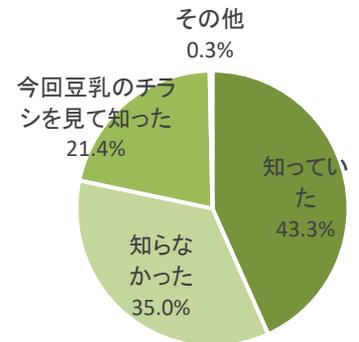
高校生の子どもがいる家庭内の約半数は、日常的に豆乳を購入

- 豆乳を飲んだことがある人の中で、豆乳購入層は、45.1%に及び、「豆乳をいつも買っている（13.7%）」、「豆乳は家にあることもある（31.4%）」となっている。つまり、高校生の子どもがいる家庭における豆乳普及率は約半数に及んでいる。
- 家庭内に豆乳が普及していない層が残りの半数は、「豆乳をほとんど買ったことがない（25.6%）」、「豆乳を買わない（28.7%）」となっている。



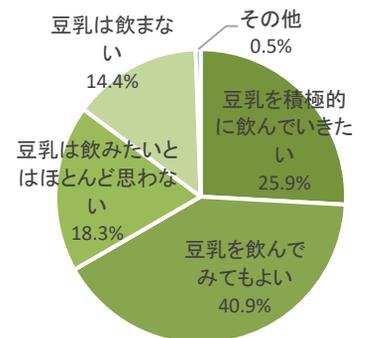
たんぱく質に関する知識の増加で愛飲意向が高まる

- 本アンケートの回答者は日頃から、スポーツをしており、筋肉や体力づくりをしている経験が比率が比較的高いと想定されるため、すでに「豆乳でたんぱく質が摂取できる」という知識のある生徒が約4割以上を占めている。
- このような活動を通して、豆乳を試飲し、豆乳に関するパンフレットを読むことで、豆乳に含まれる良質なたんぱく質について知り、今後、積極的に豆乳を飲んでいきたいと答えている生徒は、約7割に達している。



本活動をきっかけに、豆乳の魅力を知る層が増加

- このような活動を通し、「豆乳を積極的に飲んでいきたい（25.9%）」、「豆乳を飲んでみてもよい（40.9%）」と好意的にとらえている生徒は、約7割を占めており、活動の成果がうかがえる。



- 本キャンペーンの一環として、アンケート調査を行った結果、スポーツをする高校生7割に対し、豆乳の特徴や有効成分を訴求することができ、豆乳の摂取意欲を高めることができた。